

認定書

国住参建第 3864 号
令和 6 年 3 月 26 日

日鉄建材株式会社
代表取締役社長 美濃部 慎次 様

国土交通大臣 齊藤 鉄夫



下記の構造方法等については、建築基準法第 68 条の 25 第 1 項（同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法第 2 条第七号並びに同法施行令第 107 条第一号及び第二号（床：2 時間（第一号）、1 時間（第二号））の規定に適合するものであることを認める。

記

1. 認定番号
FP120FL-0263
2. 認定をした構造方法等の名称
普通コンクリート・デッキプレート造床（合成スラブ）
3. 認定をした構造方法等の内容
別添の通り

（注意）この認定書は、大切に保存しておいてください。

1. 構造名

普通コンクリート・デッキプレート造床（合成スラブ）

2. 寸法及び支持条件等

床の支持間隔は 7,000mm(自重を含めた全荷重：9.7kN/m²以下)とし、支持条件は単純支持又は連続支持とする。

3. 材料構成等

項 目	製 品 仕 様
床板	<p>デッキプレート 規格：JIS G 3352 (デッキプレート) 鋼板の種類：SDP2 もしくは SDP2G 鋼板の厚さ (mm)：1.0～1.6 山高さ (mm)：90±1.5 働き幅 (mm)：400±2 形状及び寸法：4. 構造説明図参照</p> <p>コンクリート 規格：レディーミクストコンクリート (JIS A 5308) 種類及び呼び強度 (N/mm²)：普通コンクリート (呼び強度：18～48) 厚さ (mm)：110 以上 (デッキプレートの山上からの厚さ) 床板の総厚 (mm)：200 以上 支持条件：単純支持又は連続支持</p>
ひび割れ拡大防止用鉄筋等	<p>仕様：①もしくは②のいずれかとする。</p> <p>①溶接金網 規格：JIS G 3551 線径 (mm)：6 以上 間隔 (mm)：100 以下×100 以下 かぶり厚さ (mm)：30 以上 (コンクリート上面から)</p> <p>②鉄筋 (異形鉄筋) 材料名及び規格：(1) もしくは (2) のいずれかとする。 (1) 鉄筋コンクリート用棒鋼 (JIS G 3112) (2) 鉄筋コンクリート用再生棒鋼 (JIS G 3117) 直径 (mm)：D10 以上 配筋間隔 (mm)：200 以下×200 以下 かぶり厚さ (mm)：30 以上 (コンクリート上面から)</p>
耐火補強筋	<p>異形鉄筋 (耐火補強筋) 材料名及び規格：(1) もしくは (2) のいずれかとする。 (1) 鉄筋コンクリート用棒鋼 (JIS G 3112) (2) 鉄筋コンクリート用再生棒鋼 (JIS G 3117) 直径 (mm)：D10 以上 間隔 (mm)：200 以下 かぶり厚さ (mm)：30 以上 (デッキプレート上面から)</p>

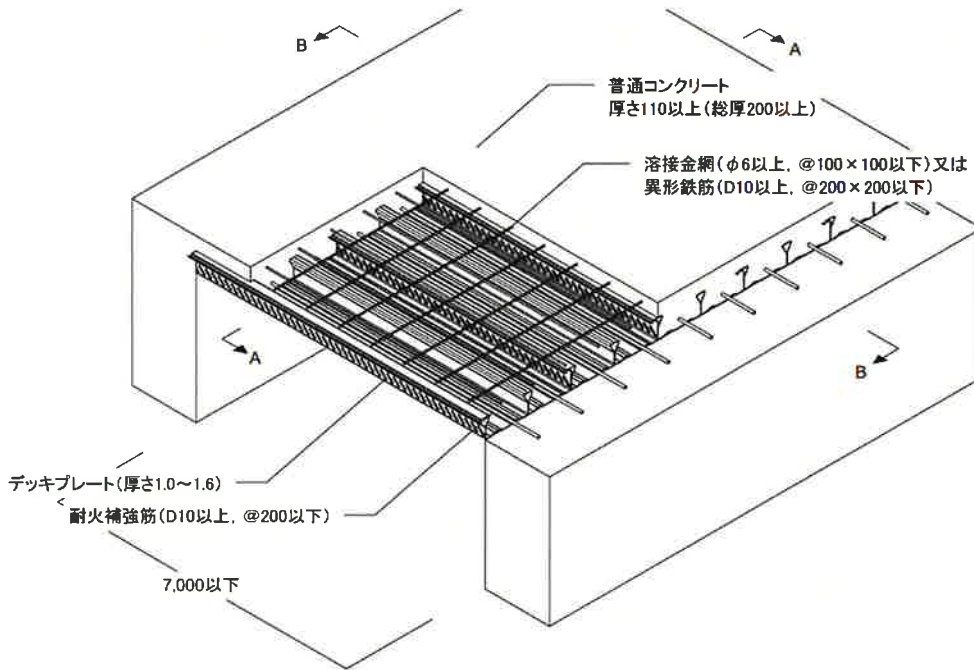
項 目	製 品 仕 様
スパーサー	<p>ひび割れ拡大防止用鉄筋等 種類：①もしくは②のいずれかとする。</p> <p>①鉄線 線径 (mm) : 5.5 以上 (規定のかぶり厚さが確保でき、施工時に変形等しない線径以上) 配置間隔 (mm) : 1,000 以下</p> <p>②セメントモルタルブロック 寸法：規定のかぶり厚さが確保できる断面寸法以上 配置間隔 (mm) : 1,000 以下</p> <p>耐火補強筋 種類：①もしくは②のいずれかとする。</p> <p>①鉄線 線径 (mm) : 4.0 以上 (規定のかぶり厚さが確保でき、施工時に変形しない線径以上) 配置間隔 (mm) : 1,000 以下</p> <p>②セメントモルタルブロック 寸法：規定のかぶり厚さが確保できる断面寸法以上 配置間隔 (mm) : 1,000 以下</p>
接合方法	<p>はり と 床板 の 接 合 仕様：耐火補強筋を梁に定着 材料名及び規格：(1) もしくは (2) のいずれかとする。 (1) 鉄筋コンクリート用棒鋼 (JIS G 3112) (2) 鉄筋コンクリート用再生棒鋼 (JIS G 3117) 直径 (mm) : D10 以上 定着長さ (mm) : 150 以上 配置間隔 (mm) : 200 以下</p>

4. 構造説明図

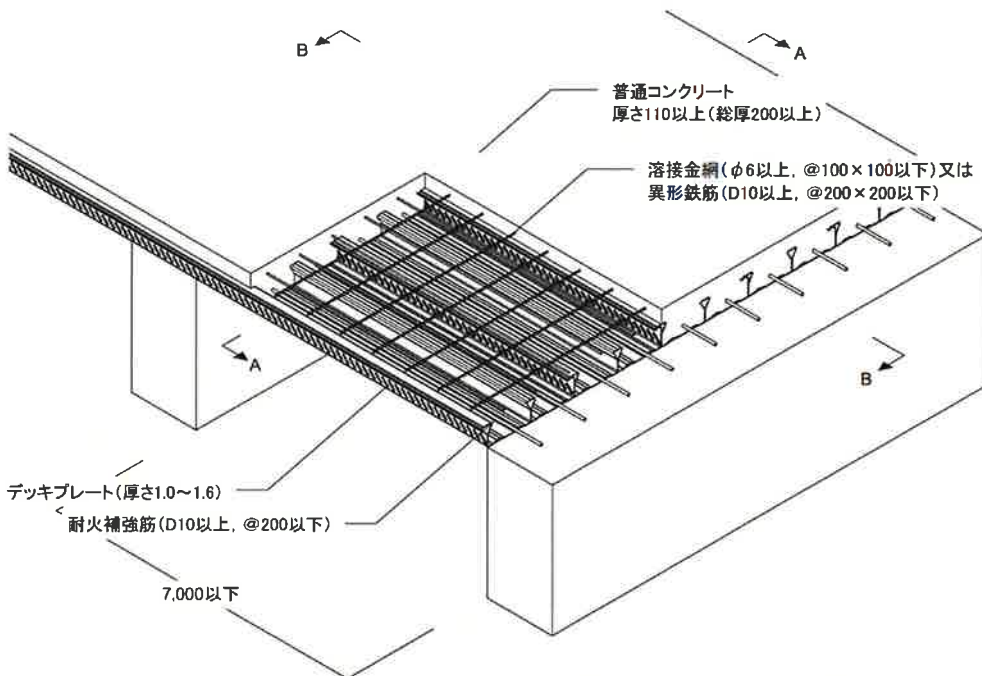
(1) 透視図

(1) - 1 デッキプレートが単純支持の場合

(単位：mm)



(1) - 2 デッキプレートが連続支持の場合

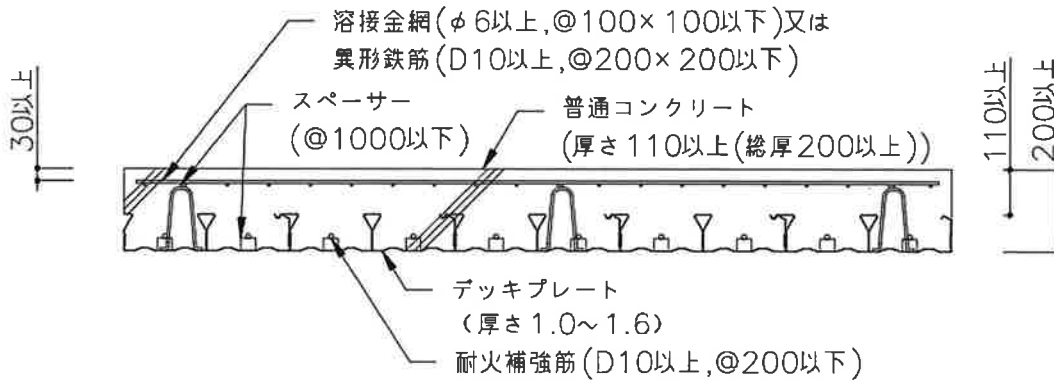


(単位：mm)

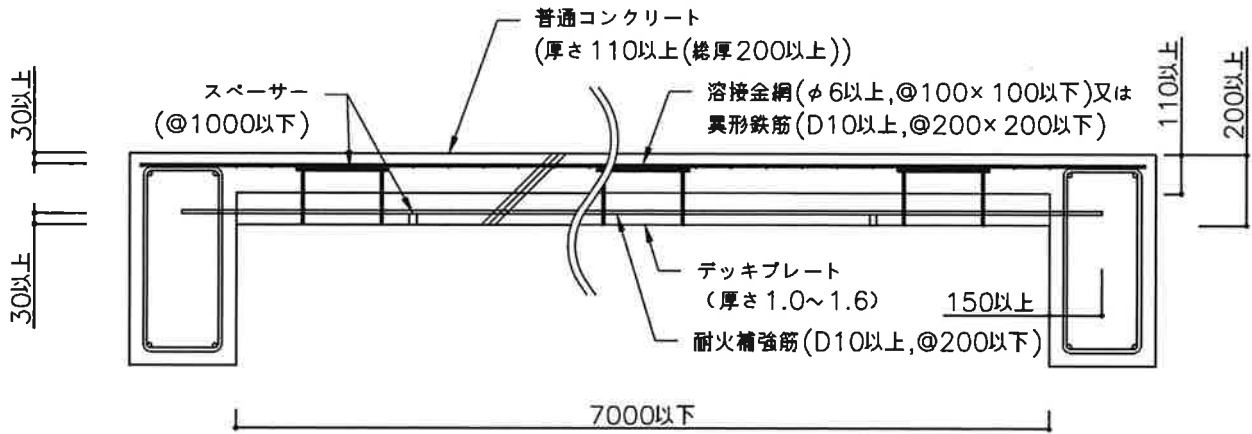
(2) 断面図

i) A-A断面図

(単位：mm)

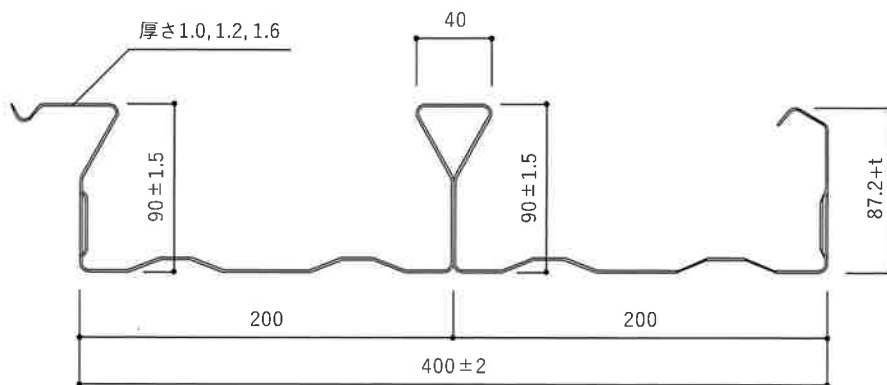


ii) B-B断面図



(3) デッキプレートの形状及び寸法

(単位：mm)



5. 施工方法

(1) デッキプレートの敷込み及び梁とデッキプレートの接合

デッキプレートを設置する梁の内々間隔が 7,000 mm以下であることを確認する。デッキプレートのみ込みが 0mm 以上となるように敷込む。

(2) 梁とデッキプレートあるいは床板との接合

耐火補強筋を 150mm 以上梁に定着させることで接合する。

(3) デッキプレートの長さ方向相互の接合

デッキプレートの長さ方向相互は嵌合により接合する。必要に応じて、その嵌合部を溶接、ねじ等で固定する。

(4) デッキプレートの小口処理

必要に応じて、デッキプレートの山部の小口を鋼板等で塞ぐ。

(5) ひび割れ拡大防止用鉄筋の配置

溶接金網または異形鉄筋は、スペーサー（配置間隔 1,000mm 以下）を用いて、床板上面からのコンクリートのかぶり厚さが 30 mm以上となるように床全面に敷き並べる。

溶接金網は、直径が 6mm 以上、網目間隔が 100×100mm 以下のものとする。異形鉄筋の直径は D10 以上とし、配筋間隔は縦及び横とも 200mm 以下とする。異形鉄筋の加工及び組み立ては、「建築工事標準仕様書・同解説 JASS 5 鉄筋コンクリート工事(日本建築学会)」(以下、「JASS 5 鉄筋コンクリート工事」という)に準拠する。

(6) 耐火補強筋

異形鉄筋 D10 以上をデッキプレートの各溝に 1 本ずつ、スペーサー（配置間隔 1,000mm 以下）を用いて、溝部中央、デッキプレート上面から 30mm 以上の位置に配筋する。配筋の詳細は「JASS 5 鉄筋コンクリート工事」による。

鉄筋コンクリート梁等の場合は、梁に 150mm 以上定着させる。その他の配筋の詳細は、「JASS 5 鉄筋コンクリート工事」による。

(7) コンクリートの打込み

コンクリートの打込みは、「JASS 5 鉄筋コンクリート工事」に準拠する。コンクリートは、補強筋の移動によりかぶり厚さ不足が生じることのないように、また、所定厚さを確保するように不陸なく打込む。

(8) コンクリートの仕上げ

コンクリートの表面は金ごて等の仕上げを施す。

(9) コンクリートの養生

コンクリートの養生は、「JASS 5 鉄筋コンクリート工事」に準拠するが、初期には湿潤養生を行う。